

恵みと真理のニュース



2015 年 3 月の四次 恵みと真理教会
 韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

私の信仰を回復してくださり、その信仰で驚くな

祝福を受けるように導いてくださる神様を賛美します

私が中学生になる時、村の大体の人が偶像崇拝をする田舎で教会が建てられました。好奇心で友達と教会に行ったら牧師と牧師の奥さんと同じ年頃の女の子3人が礼拝を捧げていました。私を嬉しく向かえてうかうかと礼拝を捧げました。初めて経験した風景でしたが、熱心に賛美歌を歌って説教を聴きました。牧師が鳴き声で祈る時には笑いが吹き出て我慢するのが大変でした。礼拝が終わると牧師がとても優しく接してくださいました。朝礼拝も参席したかったです。しかし、親の反対を克服してアラムの時計がなかったころ決まった時間に起きるのがやさしくなかったです。私の家は全国で有名な占い師がいました。教会に行くためにその家を通る時とても恐いでした。寝る前に神様に祈りました。「朝礼拝に行きたいので教会の鐘がなると私を起こしてください。占い師の家を通る時にも恐くないようにしてください。神様は私の祈りを答えてくださいました。寝る途中きゆうに耳の近いところで鐘の音が聞こえて起きたら遠い下の村にある教会で朝の鐘が鳴っていました。そして胆力と勇気も出て暗い道も恐くなくて友達の家によって面倒がる友達をつれて教会に行き礼拝を捧げました。驚いた経験をして礼拝を捧げ賛美する事が真の楽しいことになりました。イエス様に対する信仰と愛が出来て伝道しました。主日の朝、母親と旦那がいなくて子供達を育てるおばさんの家に行って家事と食事の事を手伝いの末、伝道した事もありました。そのように日々神様の恵みの中で生きて、ある日牧師が他の地域に行かれました。私が中学校3年の時でした。とても落胆して悲しかったです。その当時学生から大人まで合わせて15名くらいでした。どこかが新しく赴任してきた牧師が世の言葉と学生達に変な質問をして心に大きい傷を受けて結局教会を離れました。教会を離れた生活に慣れてしまい教会に行くことも面倒になりました。その時にはイエス様を相変わらず愛する真の信仰を持っていませんでした。歳月が経って青年になり叔父さんがいるアンサンで過ごす時に今の旦那と出会い結婚しました。さらには旦那も私のように中学校の時に信仰生活を始めた大学生になってもっと神様を仕え熱心に信じた青年でしたが、人に傷を受けて然りとは然りとは上の空で信仰生活をしていました。初めの子供を産み旦那の実家で産後の養生をしながら嫁いびりが始まりました。唯一に外に出る日は主日で旦那と共に叔父さんが行く恵みと真理教会に行く時間でした。初めは同時礼拝がなれなくて当会長の牧師が聖書的な説教が難しく思いましたが一日でも旦那と共に外に出るのが楽しかったです。難が月が経って実家を出て旦那が出勤をする時家が恐く赤ちゃんを負んぶして叔父さんの家で旦那が帰るまで待って家に入りました。そんな私のため祖母が私の家の近くにすむ首区域長を紹介し

てくださいました。首区域長が区域員たちと共に私の家で2週間期間を決めて礼拝を捧げてくださいました。その礼拝が終わると驚くに恐さがなくなり平安になりました。平日の礼拝も捧げ区域礼拝にも参席して多くの恵みを体験しました。それに関わらず昔の傷がまだ残っていて長い間教会を離れ怠けた習性でまた礼拝が面倒くさくなりました。伝導士が訪問に来るとわざと質問をつくて一つ一つなじりました。賞切家の期間が終わって家を調べているときに旦那が私と一言も言わなくて新都市のアパートを契約しました。多くの金額を銀行で借りて買った家なので新しい家で住みながらも嬉しい事より借金で心配でした。二人の子供を育てながらもう銀行の利子を返して余裕がない生活をする時にブリーランサーで働いた旦那がたまたま働いた事務室の職員と共に放送アカデミーの塾を建てました。旦那は投資者を集めて法人で運営するのでお金はあまりかからないと心配しないようにと自信を持って話しました。しかし、追加でお金を借りて保険まで解約したことが明らかになりました。どんな事があっても家は絶対に触れないと硬く約束したのが裏切られ離婚の話までしました。心配したとおりに時間が経てあちこちから謝金の督促が酷くなり私達の能力では返さないので仕方なく家を急に売りに出したが1年2年が過ぎてても売れなかったです。私の家が売れるため切に願いがら旦那が起こした事なので旦那が責任を負うべきだと思って祈らなかつたです。むしろ心が硬くなり旦那と共にあちこち教会を行って彷徨しました。どこかの教会に行っても礼拝の喜びもなく恵みと感動が続きませんでした。そして叔父さんに導かれまた私達の教会の礼拝で恵まれました。以前と違って当会長の牧師の説教が初めから最後まで耳に入り感動と恵みになりました。旦那もその日、大きい恵みを受けて真実な心で神様に切に祈りました。その日家に帰って私達の夫婦は膝をまづいて今まで怠けていた信仰生活と神様に不従順した事も悔い改めました。すると驚くことが起こりました。3年間売れなかつた家がすぐ次の日に売れました。謝金を返して残ったお金を再開発地域の小さい家を買って引っ越しました。新婚の頃住んだので私達を覚えていた区域長もいてまるで故郷に来たように心が平安で楽しかったです。区域長の職分を受けて周りの人に伝道しながら日々が短く感じるくらい主の事に力を尽くすと神様は娘二人だった私達の家庭に息子をくださいました。元々計画もなかつた妊娠だったので驚いて大変な生活をして来たので初めは子供を身ごもつことも嬉しくなかつたです。信仰を回復して主の事に力を尽くしているが主の事が疎かになるのではないかと心配もありました。それで旦那の意外には一人にも言わなくて2週間祈りました。ある日に祈つてみ言葉を黙想するため聖書を開いたらすぐ「見よ、子らは主からいただく嗣業。胎の実は報い。」(詩篇127:3) 御言葉が入りました。神様が私に下さる御言葉でした。一瞬恨んで不平した心がなくなり感謝の祈りが出ました。私を相変わらず愛する神様が私が主の事に一番力を尽くす時に嗣業下

さる子供だと悟りました。神様はいつも私を愛し、その愛と恵みの中で行きながらも悟らなくて何のことが起きる時に恨んで不平をした私が恥ずかしいです。出産を一ヶ月前もって医師から「赤ちゃんがとても大きくて子宮入り口ももう2cm開いているので早く促進剤を受けて赤ちゃんを生んだほうが良いと言われました。促進剤を受けて無理やり子供を産むため私の体は疲れ果てて苦しみの中で子供を産みました。出産の苦しみの末、得た息子なので嬉しかったです。ところがその喜びも短く退院をする時に医師から赤ちゃんの心臓の音で雑音が酷く聞こえると先天性の心臓病が疑われると青天の霹靂な話を聞きました。息子を産んで喜んでた舅姑には何も話せませんでした。その代り私の夫婦は毎日家庭の礼拝を捧げました。聖霊は大きい慰めと力を下さり神様に感謝を捧げるように心を感化させてくださいました。100日が過ぎて心臓病の治療で有名な病院に行って心臓の超音波の検査を受けました。病院で穴がとても小さくてもっと大きく聞こえた日常生活をするのに問題がないが、穴が小さくて自然に詰まる所に位置してないのが心配だと言われました。日常生活をするのに問題がないということに神様に感謝を捧げ神様の恵みで赤ちゃんの心臓にある穴も手術しなくて自然に詰まるように祈りました。それから1年後風邪で病院で今まで心臓で鳴った音が鳴らなくなると言われました。穴が詰まったのです。神様が治療の奇跡を与えてくださいました。漫画作家が夢であった娘が入るのも難しい韓国アニメ高校に入ったことも神様の恵みでした。初めは実力がないから不安でしたが残った時間自分の夢のため神様の助けを願いながら熱心に能力しました。そして、全国にある学院でその学校進学を準備する学生が集まって入試に今まで実際に自信がなかつた娘が入試で一等して審査委員教授も驚かせました。娘は今アメリカにある大学を準備しています。娘の道を予備している神様が助けて恵みと摂理してくださることを私は信じます。神様は他の二人の娘にもきれいな心と才能を下さり教会で熱心に奉仕するように恵みの上に恵みを与えてくださいました。受けた才能を磨いて神様の栄光を捧げる子供になりいつも感謝していつでも今より神様をもっと信じ仕える子供達になることを願ひ祈ります。旦那にも外国人宣教会で奉仕し教会と聖徒を仕えるように恵みと使命を与えこれを担えるように導いてくださる神様に感謝します。たとえ、私達の夫婦の信仰がまだ足りなくてもっときれいにしなければそんな私達を哀れんでくださりいつも共にいてくださる神様に感謝します。信仰が足りなくて倒れる私をいつも守ってくださる神様、私が神様と離れません。神様と離れたら生きられません。この命が尽きるまでただ主の栄光と主の喜びのため与えられた職分と使命のため最善を尽くします。ハレルヤ!



【信仰コラム】

おそれずに心をダムデヒしと

「…わたしはあなたに命じたのではない。強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない。」(ヨシュア記 1:5-9)

不安、恐怖が私たちの心になれば、精神と肉体に損傷を与えるだけでなく、社会生活も正常にできないようにします。聖書を上告してみると、大胆に行なうと十分に勝算があり、所有できるのも、恐るしさのためにできずに得られない場合があることを知ることができず。「私たちがどうすれば凡事におそれずに心を雄々しくできますか?」という質問に対する答えを調べてみます。先に、恐怖と関連して聖書から二種類の対照的な人たちに関する話を見てみます。恐れのために当然所有する企業を得ることができず、時間を無駄遣いし、広野で放浪して死んで行った人達がいます。モーゼをそってエジプトで出たイスラエルの子孫たちです。神様が彼らに乳と蜜の流れる彼らの土地に入って獲得しなさいと言いました。彼らは希望に膨らんだ胸を抱えてカナンに向かって進軍しました。しかし、10人のスパイたちから否定的な報告の言葉を聞いて恐怖にとらわれて彼らから広野で放浪生活をする事になりました。その当時20歳以上の人はヨシュアとガラルレブ2人を除いては40年間の広野生活でいずれも死にました。

一方、に強く、大胆な心を持つので、驚くべき勝利を得るようになった人たちがいます。ミデヤン人たちの抑圧と収奪に言うまでもなく疲弊するようになったイスラエルの民が神様に叫ぶと、神様はギデオンを選んでイスラエルをミデヤン人で救援する筈に立てました。ギデオンは神の摂理を受け、ライオンのように大胆な軍事、3百人を選抜して導いてさらに、イナゴの群れのように多くのミデヤン人敵軍を撃退して大きな勝利を収めました。メディア眼科の戦いはすでに神様が勝利をいただくことに決めた戦いでした。イスラエル軍はただ、強く、大胆な気持ちで進軍さえすれば勝てる、戦利品を収めることができました。次に、私たちがどうすれば強く、大胆な心を持つことができるかを見てみます。その第一は、神様が一緒にして主審を知って確信しなければなりません。ヨシュアは「私があなたと一緒にしてあなたを離れないだろう」は神様の言葉を直接聞きました。今日、私たちが神様が私と一緒にいらっしゃるといふ確信を持つことができる根拠がどこにありますか? 神様が聖霊にいらっしゃって聖徒らと一緒にしてくれます。(ヨハネによる福音書 14:16-20、マタイによる福音書 28:20) 五旬節の聖霊降臨を体験した弟子たちは皆強く、大胆になって力強く福音を伝える、あらゆる苦難と差別を十分に耐えする者になりました。その二つめは、神様の言葉を守って行わなければなりません。神様はヨシュアに「この律法本をお前の口から離れないようにし、昼夜でそれを黙想してその中

で記録したとおりにすべて守って行くとそうすれば君の道が平坦なようになるものと。」と言いました。神様は彼の言葉を守って行う者を助けて行く手を平らにさせて亨通させてくれます。聖徒が枝は大胆さの根拠は神様の言葉を守って行うものです。神様のお話どおりに住む男よりもっと強い者はありません。私たちの心が私達を叱責することがないと、神様の前で大胆さを得るとしました。神様の国と彼の義を先に求められる生活をする、神の善良で喜んで完全な意志に従って生きていけば大胆さを得ます。この世の中を生きていけば私達を不安にさせて恐れさせることが絶えずやってきます。しかし、聖徒は恐れと悪戦苦闘しません。私を愛してくれる神様が私と一緒にしているということを考えると雄々しく心になります。そして神様の言葉を守って行なうと神様が失敗や苦境や死さえも亨通した結果になるようにしてくれば合力して線をかなえてくれます。それゆえ恐れることありません。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

我は聖霊を信ず (2)



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

先週の主日には聖霊様が誰か？という質問に対する答として神様である聖霊様、聖霊様の属性、聖霊様に対する象徴、聖霊様の知性と感情と意志に関して調べました。今日は聖霊様がなさる仕事と聖霊様の交通なさるに関してよく見ます。

第一は、聖霊がどんな仕事をなさるかをよく見ます。

先に、聖霊が罪人にどんな仕事をなさるかをよく見ます。

聖霊様は罪人が悔い改めて福音を信じて永生を得るようになります。人は生まれる時から彼の霊魂が咎と罪で死んだ状態にあります。だから自らは救いの真理をわからないです。聖霊様が不信者にどのように働くかをイエス様が具体的におっしゃいました。それがきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。”(ヨハネによる福音書 16:8) しました。

第一、聖霊様は罪に対してとがめます。アダムが罪を犯すことによってアダムの子孫になったすべての人が本質上の罪人で生まれるようになりなりました。人はこのような原罪を持つだけでなく生きて行きながら多くの罪を犯します。イエス様が人のすべての罪をあがないしたからイエス様を信じればそのすべての罪を赦しを受けます。だから原罪と自犯罪によって滅亡を受けると言うより原罪と自犯罪をあがないしてくださったイエス様を信じないから滅亡を受けるのです。イエス様を信じなくて罪の赦しを受ける道はないです。イエス様のあがないの恵みをこうむらなくては審判と滅亡をまぬかれることができません。聖霊は罪人にこのような事実を覚まします。

第二、聖霊様は義に対して世の中をとがめます。神様が要求する義は罪を一回も犯さないで、悪魔の誘うが及ぶことができなくて、神様の前に堂々と立つことができる資格を言います。このような資格を持った人は全然ないです。そのためなので神様の独り子イエス様がこの地へいらっしゃって私たちの罪を代わりに担当して十字架に釘付けることになったです。そして墓から復活して昇天なさって神様の右に座りました。そして誰でもイエス様を信じれば義のあると言うことを得させます。聖霊はこのような事実を人々が悟らせて信じさせます。

第三、聖霊様は審判に対して世の中をとがめます。“さばきについてと言ったのは、この世の君がさばかれるからである。”(ヨハネによる福音書 16:11)でイエス様がおっしゃいました “この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。”(ヨハネの黙示録 12:9) 悪魔はエデンでアダムを誘って墮落させてアダムが神様から受けた “世の中を治める権勢” を横取りしました。

わたしたちは神から出た者であり、全世界は悪しき者の配下にあることを、知っている(ヨハネの第一の手紙 5:19) しかしイエス様が十字架の上で私たちの罪をあがないして復活することで悪魔の権勢を撤廃して死亡の勢力で私たちを放してやりました。聖霊様は人々が罪に対して、義に対して、審判に対して悟るようになります。そして悔い改めてイエス様を救世主と神様で信じて迎接させる仕事をなさいます。

次は、聖霊が聖徒にどんな仕事をなさるかをよく見ます。

第一、聖霊様は聖徒を真理の中で導いてくださって神様のみ旨に従って暮すように導きます。イエス様がおっしゃるのを “けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。”(ヨハネによる福音書 16:13) しました。イエス様が復活昇天なさった後 十日が経って弟子は聖霊の降臨を体験しました。すると弟子はイエス様が話したお言葉が一つ一つ思い出してそのお言葉のみ旨が悟られました。そして人々にそのお話を教えたりそのお言葉どおり暮しました。私たちが聖書を読むとか説教をきく時まことらしくて深いみ旨を悟らせてくださるのを聖霊様に切に求めなければなりません。聖霊様は私たちを真理の中で導いてくださって、神様のみ旨に従って暮すように導きます。

第二、聖霊様は聖徒を慰めて手伝ってくれます。聖霊様は慰労者です。患難と逼迫と悲しみにあつた者を慰めます。私たちの力で手におえることができない苦難に処した時聖霊様がいらっしゃって聖書のお言葉を通じて慰めます。そしてさまざまな方法で手伝ってくれます。

第三、聖霊様は私たちが神様の息子になったことを確認します。ローマ人への手紙に記録されるのを “御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。”(ローマ人への手紙 8:16) と言いました。私たちが自然に神様を向けて “神様、私の父” と呼ぶことは聖霊が私たちが神様の息子になったことを証言してくださるからです。

第四、聖霊様は聖徒に賜物をくださって実を結ばせます。聖霊様は私たちに臨んで知識のお言葉の賜物、知恵のお言葉の賜物、霊の分別の賜物、方言賜物、方言通訳の賜物、予言の賜物、病気治す賜物、能力行う賜物、信仰の賜物をくださって権能の福音伝道者にならせます。そして聖霊様は我らのうちにいらっしゃって私たちの品性に变化をください。愛と喜楽と平和と長く堪えることと慈悲と良善と忠誠と柔らかさと節制の実を結ぶようになります。皆さんに現われる聖霊の実は教会に徳をかけて周囲の人々に善良な影響を及ぼさせます。

五番目、聖霊様は聖徒が復活するようになります。ローマ人への手紙 8章 11節に記録されるのを “もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださるであろう。” としました。イエス様が再臨なさる日、聖徒が復活して変化された身を持つようになるはずなのにこれは聖霊がなさる仕事です。

二番目は、聖霊の交通なさるに関してよく見ます。

イエス様は約束するのを “しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。”(ヨハネによる福音書 16:7) しました。イエス様が離れ去って、“助け主”である聖霊様がいらっしゃるのが聖徒に有益な理由が何ですか？

第一、イエス様が肉体を着てこの地にいらっしゃる間には時間と空間の制限を受けました。ところが “助け主”である聖霊様は時間と空間の制限を受けずに同時にどの所にもいらっしゃって聖徒のために働くからです。

第二、イエス様は限定された公生涯の期間に限定された地域の人々にだけ福音を伝えました。ところで聖霊様は聖徒に福音を伝えるように熱心と権能をくださって世界中の万民に福音が伝わるようになりますからです。

第三、イエス様は復活した後昇天なさる直前に約束するのを “あなたがたに命じておいたいっさいの事を守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。”(マタイによる福音書 28:20) しました。昇天なさったイエス様は約束したとおり “助け主” 聖霊様でいらっしゃって聖徒がいつでもどこにあらうがイエス様が一緒にいらっしゃったことを経験しながら暮らせてくださるからです。

聖霊様は聖徒と親密に交通なさいます。こんな事実を私たちが分かってその恩恵を積極的に享受しなければなりません。使徒ペテロは異邦人である百卒長ゴネリヨが彼を招待しようと送った人々が来た時に聖霊が彼におっしゃるのを “さあ、立って下に降り、ためらわないで、彼らと一緒に出かけるがよい。わたしが彼らをよくこしたのである。”(使徒行伝 10:20) は指示をしました。ペテロが聖霊様の指示どおりゴネリヨの家に言って福音を伝えました。アンデーオック教会聖徒が礼拝して禁食する時聖霊がおっしゃるのを “一同が主に礼拝をささげ、断食をしていると、聖霊が「さあ、バルナバとサウロとを、わたしのために聖別して、彼らに授けておいた仕事に当らせなさい」と告げた。そこで一同は、断食と祈とをして、手をふたりの上においた後、出発させた。ふたりは聖霊に送り出されて、セルキヤにくんだり、そこから舟でクプロに渡った。(使徒行伝 13:2-4) 使徒パウロがアジアに行って福音を伝えようと決心したが聖霊が阻みました。それでビドニアに行こうと力をつくしたがやはり聖霊が承諾しなかったです。そしてドロアに下がったが夜に幻想が見えました。マゲドニヤ人が立って彼に懇請して言うのを “マゲドニヤに渡って来て私たちを助けなさい。” しました。そしてパウロ連中がマゲドニヤに行くようになりました。(使徒行伝 16:6~10)

このように初代の教会の使徒や聖徒はいつも聖霊様を意識して働きました。彼らは聖霊様に尋ねて議論して聖霊様の指示に従ったし、聖霊様と一緒にしました。彼らは聖霊様を神秘的な能力や影響力ではなく彼らと一緒になさる神様で分かっていました。聖霊様と彼らの間には深く親密な交通が持続しました。聖徒の信仰生活に現われる聖なる熱情と喜びと能力は聖霊様の交通なさることによります。

“我は聖霊を信ず” という信仰告白をする皆さんは積極的に能動的に聖霊様と深く親密な交通をなさってください。すべての事に聖霊様に尋ねて議論して、聖霊様の教えることと導くことと指示することに従ってください。そして皆さんのすべての事に聖霊様の現われることと能力を豊富に体験するように願います。